

Q Report 2/4

第76期第2四半期(中間)報告書
(2022年4月1日～2022年9月30日)

TOMITA

SINCE 1911

証券コード：8147



株 式 会 社



株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2023年3月期第2四半期を終了いたしましたのでここに営業の概況ならびに第2四半期決算の状況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化が進んだことで景気は緩やかな回復基調にあるものの、世界的な半導体不足に加え、ウクライナ情勢の長期化や中国でのロックダウンの影響によるサプライチェーンの混乱、急激な円安の進行や原材料価格・原油価格の高騰など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

わが国の工作機械業界は、当第2四半期連結累計期間は、国内は需要が前年同期比21.4%増加、海外でも需要が前年同期比10.3%増加し、その結果国内外全体の受注額は14.0%増加し8,956億円となりました。

こうした環境下、工作機械を主力取扱商品とする当社グループの受注・売上につきましては、国内では半導体や建機関連部品業界の旺盛な需要のため、加えて、海外では業績回復及び従来とは異なる業界からの需要増加のため、受注額は順調に増加しました。一方で、半導体や一部部品の供給不足により、工作機械の納期が引き続き長期化していること、当社グループの主力ユーザーである自動車メーカーの工場の稼働日数、工場消耗品の需要がまだ回復途上であることなどから、売上高は前年同期比減少となりました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は88億3千7百万円（前年同期比5.8%減）、営業利益は1億7千8百万円（同4.0%減）、経常利益は3億2百万円（同12.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億2千1百万円（同16.0%減）となりました。

わが国経済は、各種政策や製造業の積極的な設備投資により、持ち直しの動きが続くことが期待されるものの、世界的な半導体や部品不足の継続、それに伴うサプライチェーンの混乱、インフレの加速、ウクライナ情勢の長期化など先行き不透明な状況が続く可能性があります。

当社グループは半導体・建機関連等の需要が旺盛な業界や、航空機関連、船舶関連、医療機器関連業界への営業を強化、また欧州から輸入する最先端の自動車製造用機器類の取扱いを増やし営業基盤の拡大に務めております。国内においては引き続き地場密着型で提案営業を継続しながら、特に生産性向上や労働力不足の解決や、カーボンニュートラル達成に貢献する自動化・省力化へのニーズにも積極的に応えてまいります。海外においては、中国・インド・タイを含めたアジア地域、メキシコを含めた北米地域を重要戦略地域と位置付けており、引き続き重点的に投資を行うとともに営業を拡大することで日本の製造業の海外生産活動へのサポートを強化し、今後も海外拠点の活動を拡充してまいります。また、国内外のユーザーに近い場所で営業活動を展開することで、時代の変化に合わせてグローバルで高度化かつ多様化するお客様のニーズにお応えしてまいります。

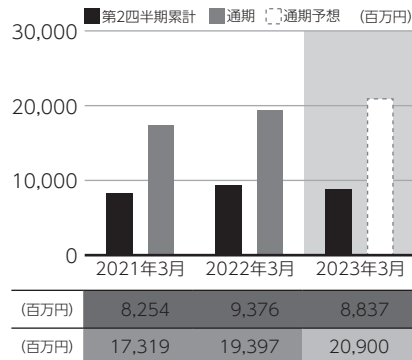
株主の皆様におかれましては、なにとぞ格別のご理解と、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。



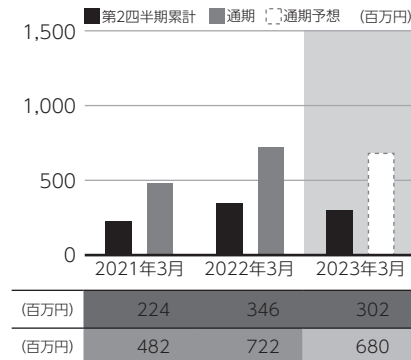
代表取締役社長

富田 稔

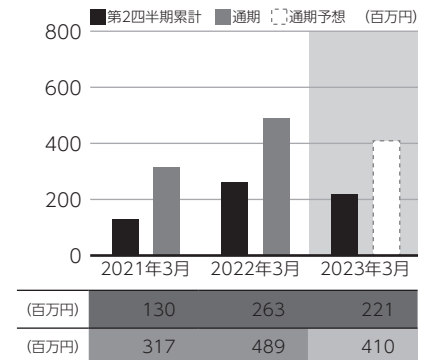
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



■連結貸借対照表（要旨） （百万円）

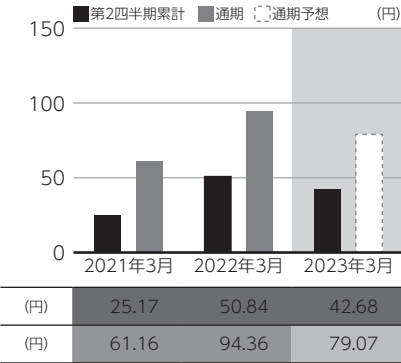
科 目	当第2四半期 (2022年9月30日現在)	前期 (2022年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	11,592	11,700
固定資産	4,558	4,563
有形固定資産	1,114	1,042
無形固定資産	52	60
投資その他の資産	3,391	3,459
資産合計	16,150	16,264
負債の部		
流動負債	3,906	4,696
固定負債	1,507	1,340
負債合計	5,413	6,037
純資産の部		
株主資本	8,324	8,191
その他の包括利益累計額	2,145	1,794
非支配株主持分	267	240
純資産合計	10,737	10,226
負債純資産合計	16,150	16,264

■連結損益計算書 （百万円）

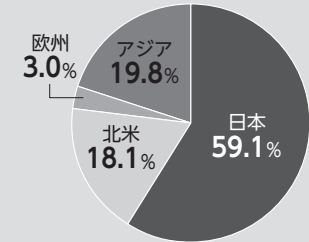
科 目	当第2四半期 (2022年4月 1日から 2022年9月30日まで)	前第2四半期 (2021年4月 1日から 2021年9月30日まで)	前期 (2021年4月 1日から 2022年3月31日まで)
売上高	8,837	9,376	19,397
売上原価	7,240	7,847	16,238
売上総利益	1,596	1,529	3,159
販売費及び一般管理費	1,418	1,343	2,742
営業利益	178	186	417
営業外収益	146	180	344
営業外費用	23	20	38
経常利益	302	346	722
特別利益	31	1	2
特別損失	16	—	0
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	317	347	724
法人税・住民税及び事業税	98	96	231
法人税等調整額	2	△12	1
四半期(当期) 純利益	217	263	491
非支配株主に帰属する 四半期(当期) 純利益	△3	△0	2
親会社株主に帰属する 四半期(当期) 純利益	221	263	489

（注）非支配株主に帰属する四半期純利益の△は、損失を示しております。

■1株当たり四半期(当期) 純利益 （円）



2023年3月期第2四半期 地域別売上構成 （円）



＜日本＞
 半導体や一部部品不足を主因とした長納期化の影響により工作機械の売上が減少し、当第2四半期連結累計期間の売上高は52億1千6百万円（前年同期比15.3%減）となり、営業利益は8千1百万円（同28.2%減）となりました。

＜北米＞
 半導体や一部部品不足の影響により完全な回復には至っていないものの、為替変動及びメキシコを中心とした自動車メーカー向けの受注増加を主因として売上が増加し、当第2四半期連結累計期間の売上高は15億9千9百万円（前年同期比4.5%増）となり、営業利益は5千6百万円（同51.7%増）となりました。

＜欧州＞
 自動車メーカーの設備投資に対する受注・売上が増加し、当第2四半期連結累計期間の売上高は2億6千7百万円（前年同期比106.3%増）となり、営業利益は1千1百万円（前年同期比328.0%増）となりました。

＜アジア＞
 ベトナム及びインドでは新型コロナウイルス感染症による影響から回復基調にあり、前年同期の売上高を大幅に上回りました。一方で、中国ではロックダウンの影響及びサプライチェーンの混乱により売上が減少し、タイでは自動車メーカー向けの機械の売上が増加したものの利益率の高い工具等の売上が減少した結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17億5千3百万円（前年同期比12.7%増）となりましたが、営業利益は3千1百万円（同25.8%減）となりました。

■株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
株主配当受領 株主確定日	3月31日（中間配当を行う場合9月30日）
定時株主総会	6月中に開催
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 （郵便物送付先） お問い合わせ先）	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031（フリーダイヤル）
単元株式数	100株
公告の方法	ホームページに掲載いたします。 URL： http://www.tomitaj.co.jp

（お知らせ）

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
- 未払配当金のお支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

■会社の概要（2022年9月30日現在）

商 創 設 資 本 事 業 所	号 業 立 金 所	株式会社トミタ 1911年5月1日 1943年4月26日 397,500,000円		
本 社	本 社 事 務 所	東京都中央区銀座8-3-10 東京都大田区大森中1-18-16 営業統括本部 電話 03 (3765) 1185 (代)		
大 阪 支 店	名 古 屋 支 店	静 岡 営 業 所	栃 木 営 業 所	
神 奈 川 営 業 所	北 陸 営 業 所	埼 玉 営 業 所	茨 城 営 業 所	
中 国 営 業 所	山 梨 事 務 所	四 国 事 務 所	東 北 事 務 所	

■役員の状況（2022年10月31日現在）

代表取締役会長	富 田 薫
代表取締役社長	富 田 稔
専務取締役〔国内管掌〕	樋 口 勝 幸
常務取締役〔海外管掌〕	小 倉 弘 司
取締役〔総務部長〕	中 村 龍 二
取締役〔中部・西日本営業部長〕	栗 田 純 夫
取締役〔東日本営業部長〕	樺 木 徹
社外取締役	中 島 和 彦
常勤監査役	齋 藤 正
社外監査役	土 師 良 一
社外監査役	杉 本 健 司

■関係会社

- 株式会社ツールメールクラブ
- 株式会社トミタファミリー
- TOMITA U.S.A.,INC. (OHIO)
- TOMITA U.S.A.,INC. (ALABAMA)
- TOMITA U.S.A.,INC. (INDIANA)
- TOMITA U.S.A.,INC. (GEORGIA)
- TOMITA U.S.A.,INC. (KENTUCKY)
- TOMITA CANADA,INC. (ONTARIO)
- TOMITA MEXICO,S.DE R.L.DE C.V. (LEÓN)
- TOMITA MEXICO,S.DE R.L.DE C.V. (QUERÉTARO)
- TOMITA U.K.,LTD. (OXON)
- TOMITA ASIA CO.,LTD. (BANGKOK)
- TOMITA ASIA CO.,LTD. (CHONBURI)
- TOMITA ENGINEERING (THAILAND) CO.,LTD. (BANGKOK)
- 广州富田貿易有限公司 (GUANGZHOU)
- PT.TOMITA INDONESIA (BEKASI)
- VIETNAM TOMITA CO.,LTD. (HANOI)
- VIETNAM TOMITA CO.,LTD. (HO CHI MINH)
- TOMITA INDIA PVT.LTD. (GURUGRAM)
- TOMITA INDIA PVT.LTD. (GUJARAT)
- TOMITA INDIA PVT.LTD. (BENGALURU)